

平成 27 年度 現代文 B（3 年）シラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	現代文 B	単位数	2	履修学年・区分	第 3 学年
使用する教科書	東京書籍 新編現代文 B				
副教材等	なし				

2 学習目標

- ・基礎的な語彙, 漢字, 表現技巧を学び自由に活用できる力を養う。
- ・さまざまなジャンルの文章に触れ, 読み味わうことで語彙力, 読解力を身につける。また読書をする喜びを体験し, 視野や思考の幅をひろげ, 自らの考えを深める。
- ・自分の考えと意見を表現できる語彙と表現力を身に付け自己アピール, コミュニケーション能力を高める。

3 学習方法

- ① 教科書を繰り返し音読する。
- ② プリントを用いて漢字の練習を行う。
- ③ ワークシートを利用し読解を深める。
- ④ 作者の他の作品を読み味わい読書の幅を広げる

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	4	オリエンテーション 随想 新しい視点から 『カフェの開店準備』	・現代文 B の 1 年間の学習計画を理解する。 ・個性的な表現に注意しながら随想を読み、内容を的確に読みとる。 ・日常への鋭い視線、逆転の発想が描かれた文章を読み、視野を広げる。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシートの提出。 ・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
	5	小説 1 生のかたち 『カンガルー日和』	・小説が、構成や表現の面でどのように工夫されているかを理解する。 ・小説を読むことを通して、自分とは何か・人間とは何かという問題について考えを深める。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシートの提出。 ・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
	6	評論 1 時代をひらく 『最初のペンギン』	・論理・展開に注意して評論を読み、扱われている問題を正確に捉える。 ・筆者の考えを手がかりに、現代社会を生きていく上でどのような態度が必要かを考える。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシートの提出。 ・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
	7			
第 2 学期	9	詩歌 心のうた 『永訣の朝』 『一日の長さ』	・詩的な表現への理解を深め、詩歌に込められた作者の心情を味わう。 ・様々な詩歌に接して、多様な表現を味わい、鑑賞力を高め、自己の感性を豊かにする。	・詩歌を読み、味わうことができたか。 ・意欲的に作業に取り組むことができたか。 ・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシ

2 学 期	10	小説 2 虚構と真実 『葉桜と魔笛』	・時代背景や虚構性に注意して小説を読み、そこに描かれた世界を的確に捉える。 ・小説を読んで感じたことや考えたことを仲間に伝え合うことで理解を深める態度を養う。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント、ワークシートの提出。
	11			・辞書等を用いて、正しく表現できたか。
	12	詩歌 心のうた 『春雷』（俳句）	・個性的な作品を読み、多様な俳句の世界を味わう。 ・自然と人間との関わりを読み取る。	・俳句を読み、味わうことができたか。 ・意欲的に作業に取り組むことができたか。 ・漢字練習プリント、ワークシートの提出。
第 3 学 期	1	評論 2 現代を生きる 『モードの論理』	・語句の意味や表現上の特色に注意しながら評論を読み、筆者の主張を読み取る。 ・社会の問題に対する理解を深め、進んで様々な問題について考える。	・正しく内容が理解できたか。 ・文章の構成、内容の理解がなされたか。また語彙を理解することができたか。 ・漢字練習プリント、ワークシートの提出

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す5つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
観点1 関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
観点2 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
観点3 書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
観点4 読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
観点5 知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	観点5	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	○	◎	○	◎	漢字テスト・音声テストなど
提出物	◎	○	○	○	◎	プリント・ノートなど
定期考査	○	◎	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 国語表現の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	国語表現	単位数	3	履修学年・区分	3 学年
使用する教科書	教育出版 国語表現				
副教材等	京都書房 基礎からの国語表現の実践				

2 学習目標

国語の基礎である漢字力・語彙力を豊かにすることによって，国語で適切に表現する能力を育成する。また，文章や音声で表現する力をつけることによって，伝え合う力を高めるとともに，思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現し，社会生活を充実させる態度を育てる。

3 学習方法

- ① 教科書の内容を，ワークシートを使いながら学習する。
- ② 副教材を利用し，漢字の読み書き等の言語事項を学習する。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	原稿用紙の使い方	原稿用紙の使い方を習得する。	正しい原稿用紙の使い方が習得できたか。
		作文「自己紹介」	原稿用紙を正しく使い，自己紹介文を書く。	自分らしい自己紹介文が書けたか。作文提出。
	5	⑧ 1 ことばに変える ステップ1 速く正確に書き写す	「書くこと」の中でも最も基礎的な「視写」「聴写」を行い，自己の表現能力の実態を把握する。	速く正確に丁寧に視写・聴写することができたか。プリント提出。
		⑧ ステップ2 メモを取る・メモで伝える	必要な事項を聞き取り，メモを取る。また，それを人に伝えるために的確なメモを作る。	正確にメモを取り，的確なメモを作ることができたか。プリント提出。
	6	⑧ ステップ3 絵をことばにする	情報を取捨選択し、整理・記録するための基本的な技術を身につける。	絵を言葉で的確に表現することができたか。プリント提出。
		⑨ 1 仮名づかいを正しく ⑨ 2 送りがなの送り方 ⑨ 3 文字の使い分け ⑨ 4 句読点・表記符号の使い方	副教材の問題演習。 基本的な表現に慣れる。 紛らわしい文章表現を正す。 効果的な正しい辞書の利用。	辞書を利用し，正しく解答できたか。テキスト提出。
	7	⑨ 9 正しい敬語表現	敬語表現を身につける。	正しい敬語表現を習得し，表現することができたか。テキスト提出。
第2学期	9	⑩ 2 声の表現 ステップ1 声を出そう	呼吸の仕組みと腹式呼吸の方法について理解し，発音に留意した声の出し方を学ぶ。	呼吸の仕方を理解し，積極的に発声できたか。プリント提出。
		⑩ ステップ2 文字を声に変える	文の構造を把握し，その意味を伝える音読の仕方、特に声	聞き手に伝わりやすい話し方を工夫して話すことができたか。

学 期	10	㊦ステップ3 スピーチの方法	の高低や間の工夫について学ぶ。 スピーチのための事前準備をする。	プリント提出。 スピーチに向けて、準備ができたか。プリント提出。
		㊦ステップ4 声の発表会	実際に本番を体験する。	発声や間の取り方、態度等に留意し、聞き手を魅了するスピーチをすることができたか。プリント提出。
	11	㊦ツールボックス 三、手紙の書き方 ㊦25 手紙文を書く	伝統的な手紙の形式を学び、場面に応じたことばの意味について理解する。 副教材の問題演習。	手紙の形式について理解できたか。プリント提出。 テキスト提出。
	12	㊦5 同音異義語に注意して書く ㊦6 同訓異字の書き分け	副教材の問題演習。 文脈を読み取り、同音や同訓の語句を書き分ける。 効果的な正しい辞書の利用。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。
第3 学期	1	㊦7 類義語に注意して書く ㊦8 慣用的な表現	副教材の問題演習。 場面や文脈に合った語句を選択する。 ことわざや慣用句等を学習する。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
観点1 関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
観点2 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
観点3 書く能力正しい文章表現	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
観点4 知識・理解	言葉の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	○	◎	○	漢字テスト・音声テストなど
提出物	◎	○	○	○	プリント・ノートなど
定期考査	○	◎	◎	◎	年間3回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です)

※担当者より

基本的な国語表現を身につけ、自立した社会人として活躍していくためにも、こまめに辞書を引く習慣を身につけ、正しい国語表現を身につけましょう。また、作文や手紙文等の文章も目的にあったものが作成できるようにしましょう。さらに、音声で表現する体験をとおり、人前で堂堂と発表する態度を身につけましょう。

平成27年度 地理Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	地理B	単位数	4	履修学年・区分	第3学年（選択）
使用する教科書	新編 詳解地理B（二宮書店） 標準高等地図（帝国書院）				
副教材等	世界の諸地域NOW2015（帝国書院）				

2 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に，現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し，現代世界の地理的認識を養うとともに，地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習方法

- ① 地理の勉強は暗記ではありません。
地理の学習では，「なぜそうなるのだろうか」という問題意識を持つことで，興味関心が高まります。次に，その原因を探り，解決に向けての行動を考えていくことが自分自身の探求につながるのです。つまり，地理用語だけを暗記しても，地理の学習は難しいということです。
- ② 日々の授業が一番大切です。
主体的にノートをとりましょう。教師の説明や余談も含めて，興味を持ったエピソードや理解不十分な点も含めて，自分なりにメモして自分だけのオリジナルノートを作りましょう。
- ③ 自分の考えや疑問をみんなで共有しましょう。
分からない点や疑問に思うことは，その時に質問しましょう。あなたの質問が，授業を受けるみんなの新しい知識や理解に繋がります。
- ④ 一家に一冊「地図帳」を置きましょう。
常日頃から社会情勢に関心を持ち，テレビのニュースや新聞を見ましょう。その際，分からない地名は地図帳で確認する習慣を身に付けることが大切です。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	第Ⅰ編 地図と地理的技能 第1章 地理情報と地図 第2章 地図と地域調査	・地理情報が生活と結びついていることを理解する。 ・地図の種類とそれぞれの特色を理解する ・新旧の地形図から地域の変化を読み取る能力を養う。	・地理情報を加工して地図化する技能を身につけようとしたか。 ・地図の種類と利用に関して，設定した課題に適した地図の活用方法を身につけたか。
	5	第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	・規模や形成要因の違う様々な地形の分布や形成要因から基礎的知識や概念を養い，地形と生活との関係を考察する。 ・世界には種々の気候が存在することを理解する。その分布・成因・特徴を理解するとともに，人間の生活との関連を理解する。	・地球規模で進行している自然環境の悪化や破壊等の問題について，世界的視野に留意して考察できたか。 ・地形図の読図に関する技能を身につけたか。 ・世界の自然環境の分布や動向に関する基礎的・基本的知識や概念を習得できたか。
	6 7	第2章 資源と産業	・世界の資源・エネルギーの特色や分布，形成要因などについて考察し，基礎的・基本的知識を養う。	・現代世界の資源・エネルギー，食料等に関する問題を積極的に理解しようとしたか。 ・世界の資源と産業等に関する分布図や統計資料を活用し，分布の特色について分析する技能を身につけたか。

第2学期	9	第3章 人口と村落・都市 第4章 生活文化と民族・宗教	・村落の立地と形態，都市の発達と変容に関して考察する。 ・世界的にみた民族と国家との多様性や日本の領土問題について考察する。	・世界の人口と村落・都市の分布や動向，その形成要因に関する関心と課題意識を高めたか。 ・世界の生活文化と民族・宗教の分布や動向に関する基礎的・基本的な知識や概念を習得できたか。 ・日本の領土問題について，理解を深めることができたか。
	10	第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区	・現代世界が自然，政治，経済，文化などの指標によって様々な地域に区分できることを理解する。	・地域区分の有用性を積極的に理解しようとしたか。
	11	第2章 現代世界の諸地域	・世界の様々な規模の地域の地域的特色や地球的課題を，地誌的に追求し，歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察する。	・世界の様々な規模の地域の地域的特色や地球的課題を，地誌的に追究し考察する過程や結果の学習を通して，地図や各種の統計，年鑑，白書，画像，その他の資料からの確に地理的事象を読み取ったり，地域の変容を考察したりする技能を身につけたか。
	12			
第3学期	1	第3章 現代世界と日本	・今までの学習を基にして，日本の自然，産業構造，人口構成と居住問題，伝統文化保全とグローバル化に関して，日本がかかえる地理的な課題を発見し，その課題を多面的・多角的に考察，探究する。	・現代世界における日本の国土の特色や日本がかかえる地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土のあり方に関する関心と課題意識を高めたか。
	2			
	3			

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す4つの観点に基づき，学習内容のまとまりごとに評価を行い，学年末に5段階の評価に総括します。

なお，学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	主体的にノートをとることができているか。また，作業や話し合いに積極的に参加しているか。
2 思考・判断	地理的見方・考え方を身に付け，世の中の事象について多面的に考えられるか。
3 資料活用の技能・表現	地図や統計データ，分布図等を的確に読み取り，また自分でも作成できるか。
4 知識・理解	基本的な視点を持ち，様々な課題やその関連性について理解を深め，その一連の知識を身に付けているか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観 点 3	観 点 4	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	○	出席状況・授業への取り組み状況
単元確認テスト	○	○	◎	◎	単元終了後に実施
提出物	◎	○	○	○	課題プリントの取り組み状況
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は，観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 日本史Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書等

科目名	日本史B	単位数	4	履修学年・区分	第3学年（選択）
使用教科書	高校日本史（山川出版社）				
副教材等	新詳日本史（浜島書店）				

2 学習目標

わが国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察し，わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって，歴史的思考力を培い，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養い，真の国際化に対応できることを目標とします。

3 学習方法

- ① 常日頃から，社会事象（時事問題，世界の情勢）に興味・関心を持ち，新聞や雑誌などに目を通す習慣を身につけましょう。また，テレビやラジオのニュースなども視聴し，わからない言葉や地名が出てきたら，事典や地図帳で確認することが大切です。
- ② 「地理」「歴史」とともに必要最小限のことは暗記することが大切です。しかし，やみ雲に暗記できるわけではありません。「何故このようなことが起こったのか。」，「何故このような産業が盛んなのか。」，「何故このような問題が生じたのか。」常にその背景について考え，理解を深めながら整理して覚えましょう。TVの紀行番組，歴史番組や特集番組も大変役立ちます。また，歴史的事象に対する興味・関心をさらに深め，発展的な学習に取り組むには，歴史に関する解説書や小説などを読んだり，博物館や郷土資料館などに行って実物を見ることもいいでしょう。
- ③ 読書の習慣を身に付けましょう。ゲームやファッションなどの娯楽に流され，活字離れの社会風潮がありますが，若い時代，感受性の高いときに読んだ本は生きた知識・教養になります。
- ④ 授業では必ず，資料集や地図帳など副教材を用意すること。授業は教科書，プリント副教材等を使用して進めます。教科書の授業範囲をよく読んで，基本的事項を理解し，わからないところや疑問点を整理して授業に臨みましょう。板書事項以外でも大切なことはメモをとりましょう。受身の学習ではなく，自ら学ぶ学習を心掛けよう。自分から求めた知識は生きた知識になります。また，復習の際は，授業内容を確認し，基礎的な内容の問題集に取り組んでみましょう。学習内容のまとめり毎に，確認テストを行います。
- ⑤ 重要な事項や地名・人物名は何度も書くことによって覚えましょう。自分流のサブノートを作って整理すると，理解が深まります。問題集を活用し，單元ごとに問題を解き，実践を積み重ねればより効果的です。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1期	4	オリエンテーション 第1章 古代社会の形成	・ 授業の進め方等について説明する。 ・ 農耕の開始が社会にどのような変化をもたらしたかを理解させる。 ・ ヤマト政権の成立過程に関連して古墳文化，支配制度，朝鮮半島との関わりを理解する。	・ 水稻耕作や金属器の伝来が日本列島の社会に与えた影響を発掘調査の成果から考察し，理解できたか。 ・ 図説などの資料を活用し，古墳文化の特徴を総合的に考察し，理解できたか。
	5	第2章 律令国家の形成	・ 律令国家の仕組みや，そこに生きた人々の生活について考察する。 ・ 奈良時代の政権推移と政治内容を理解する。	・ 律令体制について人々の生活や地方の動向なども踏まえて多角的に考察し，理解できたか。 ・ 政治史の流れを理解し，諸勢力対立の原因について考察できたか。

第 1 期	6	第3章 貴族政治の展開	・9世紀から10世紀にかけての藤原北家の勢力拡大や、律令制度の変質について考察する。 ・武士の台頭を荘園の発達と絡めて考察する。	・藤原北家の発展過程、公領の変質や荘園の拡大など律令体制の変容などについて考察し、理解できたか。 ・武士団の仕組みや武士の反乱、成長などについて考察し、理解することができたか。
	7	第4章 武家社会の形成	・院政以降、貴族政権から武家政権に転換する背景を探る。 ・北条氏が幕府の実権を握り、有力御家人による合議政治をおこなうとともに、貞永式目を制定し、執権政治を展開したことについて考察する。	・院政期における武士の影響力の拡大や平氏政権の展開について考察し、武家政権がどのように成立したかについて考察し、理解できたか。 ・北条氏が台頭し、執権政治を確立していく過程や執権政治の特質について、史料をもとに考察し、理解することができたか。
第 2 学 期	9	第5章 武家社会の成長	・実室町文化の性格と戦国時代の実情を理解する。 ・戦国大名の領地支配をととして戦国の動乱を理解する。	・南北朝・北山・東山文化について禅文化や能・狂言・茶の湯・生花などを例に、その特色を考察できたか。 ・領国統治を強化して富国強兵策を推進した戦国大名について、具体的に考察できたか。
	10	第6章 幕藩体制の成立	・ヨーロッパ人の来航が日本社会に与えた影響を考察する。 ・信長・秀吉・家康の統一事業の内容を比較しながら封建的秩序の確立を理解する。	・鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できたか。 ・織田信長の人物像や統一事業の流れなどについて考察できたか。 ・秀吉の対外政策について理解し、秀吉の対アジア認識を含め一連の政策のもたらした影響について考察できたか。 ・幕藩体制の特質について、幕府と藩・朝廷・寺社などの諸勢力との関係、支配体制、経済的基盤などを踏まえて考察できたか。
	11	第7章 幕藩体制の展開	・幕政の安定と経済・社会の仕組みについて理解する。 ・元禄期の経済発展と幕政の安定を背景に、上方の豪商を中心に町人たちに担われた元禄文化の特色を考察する。	・文治政治へ転換した元禄時代・正徳の政治について、その政策の特徴などについて考察し、理解できたか。また、幕府財政悪化の要因を把握し、その影響について具体的に考察できたか。 ・元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、幕府の教学として発展する儒学などに着目して、文学作品・美術作品や学問研究の成果を踏まえて考察できたか。
	12	第8章 幕藩体制の動揺	・幕藩体制を動揺から崩壊へと導いた要因を	・幕府・諸藩の経済的窮乏などに着目して、享保の改革の諸政

第 2 学 期			考察する。 ・天明の打ちこわしの直後，寛政の改革に乗り出した松平定信の諸政策について考察する。 ・町人文化である化政文化の特色を理解する。	策について考察できたか。 ・松平定信は，どのような課題を抱えており，どのように対応しようとしたのか，考察することができたか。 ・洋学の発展を背景とした新たな動き，浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して，文化における近代化の芽生えを考察できたか。
第 3 学 期	1	第9章 近代国家の成立	・開国にあたっての幕府の対応を考察する。 ・国際意識の希薄さが不平等条約を締結させられたことを理解する。 ・明治初期の外交政策から，対欧米外交と，対朝鮮・清外交の違いについて考察する。	・日米和親条約・日米修好通商条約の締結に至る経過や，その影響について考察できたか。 ・外交政策を多面的・多角的に把握し，その影響について考察することができたか。
	2	第10章 二つの世界大戦とアジア	・第一次世界大戦中の日本の東アジアにおける動き，これに対する各国の反応とその後の展開について考察する。 ・経済的不況から国家主義の高揚，軍部の台頭を理解する。 ・日中，太平洋戦争へと突入した過程と国民意識を考察する。	・欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目しながら，第一次世界大戦を考察できたか。 ・中国の動向など国際関係の変化，戦時下の経済と国民生活などを踏まえ，世界大戦に突入していく経緯をさまざまな角度から考察することができたか。
	3	第11章 現代の世界と日本	・占領下の諸改革を具体的に理解する。 ・戦後の日本の復興から発展そして現代へとどのように推移してきたかを学ぶ。	・五大改革をはじめとするGHQによる諸政策について考察できたか。また日本国憲法が制定された経緯と意義を，国民生活の状況も踏まえて考察できたか。 ・ドル危機や石油危機によるマイナス成長への日本の対応，また，経済大国になった日本が，貿易摩擦や円高へ対応しながら，諸外国との関係を調整しながら，国際的な地位向上に努めた点について考察できたか。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき，学習内容のまとまりごとに評価を行い，学年末に5段階の評定に総括します。

なお，学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価規準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	原始・古代から現代に至るまでの我が国の歴史の変遷を学習する。その際に政治の流れや経済の発展過程を学ぶだけでなく，文化の特徴や歴史上の人物についても学習する。近現代の歴史では，世界史的視野に立って各国との関連も考えさせる授業を展開し，近現代史を中心とする自国の歴史に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国際社会に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。

2 思考・判断	自国の歴史から課題を見いだし，世界史的視野に立って各国との関連も考えさせ，多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。
3 資料活用の技能・表現	自国の歴史についての諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。
4 知識・理解	自国を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を世界史的視野に立って各国との関連も考えながら理解し，その知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法/観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	自己評価の実施。
単元確認テスト	○	○	◎	◎	単元終了後に実施。
課題追究レポート	○	◎	○	○	学年末に提出。
提出物	◎	○	○	○	学習の取り組み状況の確認。
定期考査	○	◎	◎	◎	定期考査年 5 回実施。

(◎は，観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 数学Ⅱのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学Ⅱ	単位数	4	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	東京書籍 新 数学Ⅱ				
副教材等	東京書籍 ニューファースト 新 数学Ⅱ				

2 学習目標

1章では方程式と式の証明について、2章では図形を方程式で表して図形を調べる方法、3章では指数が0や負の整数、分数になるものなどを学習します。新しく学習する内容に興味を持ち、数学的な考え方ができるようになるとよいと思います。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかりと聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。ぜひ、苦勞して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 式と証明 1. 整式の除法 2. 分数式の計算 3. 式の証明 2章 方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 4. 高次方程式	- 余りのある整式の除法 - 剰余の定理 - 分数式の乗法・除法 - 分数式の加法・減法 - 等式の証明 - 比例式の証明 - 不等式の証明 - 相加平均と相乗平均 - 複素数 - 複素数の計算 - 判別式 2数を解とする2次方程式 2次式の因数分解 - 因数定理 - 因数定理の利用	整式の除法をし、商と余りを求められる。剰余の定理を理解する、 分数式の計算ができる。 等式、不等式の証明の方法を理解し、証明ができる。 虚数単位<i>i</i>について理解する。複素数の和、差、積、商を計算し、$a+bi$の形で表せる。 複素数を解にもつものも含めた2次方程式を解ける。2次方程式の解を判別できる。 解と係数の関係を理解する。 因数定理を理解し、それを用いて3次式以上の因数分解、さらに高次方程式が解ける。
第2学期	3章 図形と方程式 1. 直線上の点の座標 2. 平面上の点の座標 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 5. 円の方程式	2点間の距離 - 中点 - 内分点 2点間の距離 - 内分点 1点と傾きで決まる直線 2点を通る直線 2直線の交点の座標 - 平行な2直線 - 垂直な2直線 - 円と直線	直線上において、点の座標が求められる。2点間の距離を求められる。2点を結ぶ線分ABをある比に内分する点の座標を求められる。 平面上において、点の座標が求められる。2点間の距離を求められる。2点を結ぶ線分ABをある比に内分する点の座標を求められる。 平面上の直線と方程式の関係が分かる。 2直線の交点の座標や関係が分かる。 円と方程式の関係が分かる。円と直線の共有点の座標が求められる。

第3学期	6. 軌跡と方程式		軌跡について理解する。
	7. 不等式の表す領域	・ $x > h$ の表す領域 ・ 円と領域	不等式とその表す領域の関係が分かる。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	「身の回りの数学」に関する数理的な諸概念に興味・関心をもち、それらを意欲的に探究するとともに、数学を活用しようとする。
2 数学的な見方や考え方	「身の回りの数学」におけるいろいろな事象について、数学的にとらえて論理的に考察したり、表現できる。
3 数学的な技能	「身の回りの数学」について事象を数量や図形を用いて適切に処理できる。
4 知識・理解	「身の回りの数学」に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けられる。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備考
学習状況の観察	◎	◎	○	○	授業中の態度。
提出物	◎	○	◎	◎	プリントや問題集。再提出あり。
ノート	◎	○	○	○	再提出あり。
定期考査	○	◎	◎	◎	年 5 回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 数学Bのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学B	単位数	3	履修学年・区分	第3学年Bコース
使用する教科書	東京書籍 新編 数学B				
副教材等	東京書籍 アシストセレクト 新編 数学B				

2 学習目標

第1章では数列について、第2章ではベクトルについて、第3章では確率分布と統計について学習します。数列では、ある規則に従って並んでいる数の規則について考え、式で表したり、和を求めたりすることを学びます。ベクトルでは、大きさと向きをもったベクトルというものについて理解し、身近な図形の中などで利用することを学びます。確率分布と統計では、事象の確率全体について考え、それらを統計として利用することを学びます。

3 学習方法

大切にして欲しいのは授業です。授業をしっかりと聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。ぜひ、苦労して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 数列 1節 数列 1 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 2節 いろいろな数列 1 いろいろな数列の和と記号 Σ 2 階差数列と数列の和 3節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式 2 数学的帰納法	- 数列 - 数列の一般項 - 等差数列 - 等差数列の和 - 等比数列 - 等比数列の和	数列の規則に気づき、一般項を式で表せる。 等差数列の性質を理解し、一般項が求められる。等差数列の初項から第n項までの和が求められる。 等比数列の性質を理解し、一般項が求められる。等比数列の初項から第n項までの和が求められる。
第2学期	2章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 1 有向線分とベクトル 2 ベクトルの加法・減法・実数倍 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 2節 ベクトルの応用 1 位置ベクトル 2 ベクトルの図形への応用 3 ベクトル方程式 3節 空間におけるベクトル 1 空間座標 2 空間のベクトル 3 ベクトルの内積 4 位置ベクトルと空間の図形	- ベクトル - ベクトルの和 - ベクトルの差 - ベクトルの実数倍 - ベクトルの計算法則 - ベクトルの平行 - ベクトルの成分表示 和、差、実数倍の成分 - ベクトルの内積 - 内積と成分 - 内積の計算法則 - 位置ベクトル - 内分点・外分点の位置ベクトル	ベクトルの定義について理解する。平面上に表されたベクトルの和、差、実数倍を表すベクトルを図示できる。ベクトルの計算法則を理解する。平行なベクトルを式で表せる。平面上に表されたベクトルを成分で表せる。成分表示したベクトルの大きさを求められる。成分表示したベクトルの和、差、実数倍を成分で表せる。 0でない2つのベクトルとそのなす角が分かっているとき、その内積を求められる。成分表示されたベクトルの内積を求められる。内積の計算法則を理解する。 線分ABをある比に内分する点、外分する点の位置ベクトルを、点A、Bの位置ベクトルで表せる。
第3学期	3章 確率分布と統計的な推測 1節 確率分布 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の平均と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布 2節 正規分布 1 正規分布 3節 統計的な推測 1 母集団と標本 2 標本平均の分布 3 母平均の推定	- 確率変数 - 確率変数 - 平均と分散、和と積 - 二項分布 - 正規分布 - 母集団と標本平均の分布	確率変数、確率分布の意味を理解する。また、確率分布を求めることができる。 確率変数の和の平均、独立な確率変数の積の平均や和の分散を求めることができる。 二項分布の意味を理解する。 標本調査の意義を認識し、標本の抽出法や用語を理解する。また、母集団の平均、分散、標準偏差が計算できる。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	「身の回りの数学」に関する数理的な諸概念に興味・関心をもち、それらを意欲的に探究するとともに、数学を活用しようとする。
2 数学的な見方や考え方	「身の回りの数学」におけるいろいろな事象について、数学的にとらえて論理的に考察したり、表現できる。
3 数学的な技能	「身の回りの数学」について事象を数量や図形を用いて適切に処理できる。
4 知識・理解	「身の回りの数学」に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けられる。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備考
学習状況の観察	◎	◎	○	○	授業中の態度。
提出物	◎	○	◎	◎	プリントや問題集。再提出あり。
ノート	◎	○	○	○	再提出あり。
定期考査	○	◎	◎	◎	年 5 回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成 27 年度 生物の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	生物	単位数	4	履修学年・区分	第 3 学年
使用する教科書	生物（東京書籍）				
副教材等					

2 学習目標

この地球上にはたくさんの生物が生活しています。もちろんわれわれヒトも生物です。姿形や生活環境等はそれぞれ違います。しかし，すべての生物に共通していることがあります。それは細胞と呼ばれるものから作られているということです。細胞が集まって組織・器官を形成し，さらにそれらが集まって一つの個体を作り上げているのです。生物では，生物や生物現象についての観察，実験を行い，自然に対する関心や探究心を深め，生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに，科学的な自然観を身に付けけることを目標とします。

3 学習方法

- ① 生物に関する内容を扱ったテレビ番組や新聞記事が身近にたくさんあります。積極的に触れてみましょう。
- ② ノートには，板書を写すだけでなく，口頭での説明もきちんと記入しましょう。復習時にまとめれば，あなただけの参考書になります。
- ③ 授業を受けていて解らないことなどがあった場合には，そのままにせず遠慮なく質問しましょう。
- ④ 実験・観察は重要です。目的や方法をきちんと理解し，実験に臨みましょう。また，レポートには「結果」の他に「考察」を必ず書きましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	第 1 編 生命現象と物質 1 章 生体物質と細胞	1 生物の体をつくる細胞 2 細胞小器官どうしのかかわり 3 生体膜のはたらきと構造 4 細胞骨格のはたらき	・細胞の成分及び細胞小器官の構造と働きについて理解している。 ・生体膜の構造と性質を理解している。 ・植物細胞と動物細胞における浸透の違いを探究している。
	2 章 生命現象を支えるタンパク質	1 生命現象とタンパク質 2 タンパク質の構造 3 タンパク質の立体構造とはたらき	・アミノ酸も含めて一次から四次までのタンパク質の構造と成り立ち

		4 物質の輸送にかかわるタンパク質 5 細胞間の情報伝達にかかわるタンパク質 6 細胞の運動にかかわるタンパク質 7 免疫にかかわるタンパク質 8 酵素としてはたらくタンパク質	を理解している。 ・タンパク質の種類とそれぞれの働きの違いについての知識を身につけている。
	3 章 代謝とエネルギー	1 エネルギー変化と化学反応 2 呼吸 3 光合成 4 化学合成 5 呼吸, 光合成, 化学合成の共通点と相違点 6 窒素同化	・代謝は同化と異化があることを理解している。 ・呼吸や発酵・解糖, 光合成や化学合成についてそのしくみを理解している。 ・窒素同化についてその意義としくみを理解している。
	第2編 遺伝子のはたらき		・DNAの半保存的複製について理解している。
	1 章 遺伝情報の発現	1 遺伝情報の流れ 2 DNAの複製 3 遺伝情報の転写 4 遺伝情報の翻訳 5 遺伝情報の変化	・タンパク質の合成過程を一連の流れとして理解している。 ・突然変異について理解している。
	2 章 遺伝子の発現調節	1 転写開始の調節	・転写開始の調節にタンパク質が関わっていることを理解している。
	3 章 バイオテクノロジー	1 目的の遺伝子を増やす 2 遺伝子の情報を読む 3 遺伝子を細胞に導入する	・バイオテクノロジーの様々な手法を認識している。
	第3編 生殖と発生		
	1 章 生物の生殖と配偶子の形成	1 有性生殖 2 全数分裂によってもたらされる遺伝的多様性 3 遺伝子の連鎖と組換え	・遺伝子が連鎖しているかしていないかで、違いが生じることを理解し、知識が身についている。

	2章 動物の発生	1 動物の配偶子形成 2 受精 3 動物の初期発生の概略 4 カエルの発生 5 ウニの発生	・動物における配偶子の形成過程について知識が身についている。 ・卵割の過程が、動物の種類によって異なることを理解している。
第2学期	3章 動物の発生のしくみ	1 背側の決定 2 中胚葉誘導 3 形成体と誘導 4 誘導の連鎖	・原口背唇部と呼ばれる部分に関心を持ち、その働きを探究している。
	4章 発生をつかさどる遺伝子	1 ショウジョウバエの発生 2 前後軸に沿った形づくりのしくみ 3 動物の発生とホックス遺伝子	・ショウジョウバエを例に、発生と遺伝子の関連を理解している。
	5章 植物の発生	1 被子植物の生殖 2 被子植物の器官分化	・被子植物の重複受精と器官分化について理解している。
	第4編 生物の環境応答		
	1章 動物の刺激の受容と反応	1 刺激の受容から反応への情報の流れ 2 ニューロンの性質と興奮のしくみ 3 刺激の受容のしくみ 4 中枢神経での情報処理 5 効果器としての骨格筋のはたらき	・感覚器官および効果器の構造やはたらきを理解している。 ・ニューロンの構造や性質、脳の構造や部分ごとの役割を認識している。
	2章 動物の行動	1 動物の行動をめぐる4つの「なぜ」 2 動物の行動の例	・動物に特徴的な行動について理解している。
	3章 植物の環境応答	1 環境に応じた植物の一生と植物ホルモン 2 環境要因による発芽の調節 3 環境要因による栄養成長の調節 4 環境要因による気孔の開閉の調節 5 環境要因による花芽形成の調節 6 老化と落葉 7 ストレスに対する応答	・植物は周囲の環境に応じて植物ホルモンの分泌量に変化し、成長が調節されていることを理解している。

	第5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集 2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 3章 生態系と生物多様性	1 個体群と環境 2 個体群の構造と成長 3 個体群の相互作用 4 種間の相互作用 5 生物群集の成り立ちと多種の共存 1 食物網と物質生産 2 生態系の構造とエネルギーの流れ 1 生物多様性とその意味 2 生物多様性を減少させる要因	・個体群の変化や多種間の共存の在り方について理解している。 ・個体群や種間では様々な作用が働いていることを認識している。 ・物質循環やエネルギーの流れなど生態系の構造を理解している。 ・種や遺伝子、生態系といった段階での多様性を理解している。 ・多様性を減少させる種々の要因について探究している。
	第6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統	1 生命の起源 2 生物の変遷 3 人類の変遷 1 進化とは 2 生物の個体間の変異とその起源 3 遺伝子頻度とその変化のしくみ 4 種分化 5 共進化 1 生物の系統 2 生物の世界の3ドメイン 3 生物の系統のまとめ	・生命の起源および生物の変遷について地球環境の変化と関連づけた理解ができている。 ・人類の変遷および分布拡大経路の知識を身につけている。 ・進化の定義について理解している。 ・変異や進化について遺伝子レベルでの考え方を身につけている。 ・種分化や共進化について理解している。 ・生物の系統の探究方法を理解している。 ・生物の系統から進化の道筋を探究している。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
観点 1 「関心・意欲・態度」	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
観点 2 「思考・判断・表現」	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出された考えを的確に表現している。
観点 3 「観察・実験の技能」	生物や生物現象に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
観点 4 「知識・理解」	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備考
学習状況の観察	◎	◎	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	◎	実験レポートや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年 5 回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年 5 回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 体育の学習のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	体 育	単位数	3	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	なし				
副教材等	なし				

2 学習目標

現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を实践できる能力を身に付ける。また、正しい服装で安全に配慮し、時間・ルールを守り授業に取り組むことや各領域・各種目の特性を学び、協力・責任を果たし、運動を楽しむことができることを目標とする。
--

3 学習方法

様々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、周囲と協力しながら技能・体力を向上させる。また、自分の体の特徴を知り、どこが強いのか、どこが弱いのかまず把握し、自分に合ったトレーニングを組んで実践することができるようにする。体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。
--

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	○集団行動 ○体力づくり運動 ○体育理論 ○選択① サッカー, バスケットボール, 卓球, バドミントン ○水泳	①姿勢②方向変換③集合, 整とん, 番号, 解散④列の増減⑤開列⑥行進⑦礼 ・体ほぐしの運動, 体力を高める運動 ・体育理論 ・基本技術の習得 ・ゲーム ①クロール②平泳ぎ③背泳ぎ④バタフライ⑤横泳ぎ	・基本動作(姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減)ができたか。 ・持久性, スピード, 筋力の向上を目指し取り組むことができたか。 ・自己の目標を設定し, 目標に取り組んだり, チーム内で協力したりできたか。 ・より長く, より速く泳げるように, 自分の能力に応じて取り組むことができたか。
第2学期	○体力づくり運動 ○体育理論 ○選択②, ③, ④ バレーボール, テニス, 卓球, バドミントン, ソフトボール, バスケットボール, サッカー, 持久走	・体力を高める運動 ・体育理論 ・基本技術の習得 ・種目毎に練習計画を立て, 協力して準備やゲームを行う。	・基本技術は習得できているか。 ・チームや個人で作戦を立て, 協力してゲームに取り組むことができたか。 ・ルールを理解し, 自分達でゲームを展開, 運営できたか。 ・習得した基本技術をゲームで活用できているか。
第3学期	○体育理論 ○選択⑤ バレーボール, テニス, 卓球, バドミントン, ソフトボール, バスケットボール, サッカー, 持久走	・体育理論 ・基本技術の習得 ・種目毎に練習計画を立て, 協力して準備やゲームを行う。	・基本技術の習得ができたか。 ・チームや個人で作戦を立て, 協力してゲームに取り組むことができたか。 ・ルールを理解し, 自分達でゲームを展開, 運営できたか。 ・習得した基本技術をゲームで活用できたか。

5 学習評価

評価は、観点1「関心・意欲・態度」、観点2「思考・判断」、観点3「運動の技能」、観点4「知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

(1) 評価の観点及び内容について

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組む

	もうとしている。
2 思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。
3 運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。
4 知識・理解	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	◎	○	○	授業中の態度、取り組み。準備・片付け、協力等。
実技	◎	○	◎	◎	練習やゲーム等。
技能テスト	○	◎	◎	◎	種目や学期毎で実施。

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 英語会話の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	英語会話	単位数	3	履修学年・区分	第3学年（全員）
使用する教科書	Sailing English Concersation（啓林館）				

2 学習目標

今までに学習した単語や文法をもとに、「話す」英語を学習します。さまざまな場面で自分の意思を英語で伝えることができるようになることが目標です。

3 学習方法

英語を話せるようになるためには、難しい単語や文法は必要ありません。その場面に必要な単語と表現を覚えることが大切です。そのためには、教科書に出てくる単語や表現を、何度も繰り返し声に出したり書き取りをしたりして、覚えるまで練習します。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Warm up 1	・自己紹介の会話表現	・自己紹介の方法を学ぶことができたか
	Warm up 2	・他者紹介の会話表現	・他者紹介の方法を学ぶことができたか。
	L1 What Day Is Convenient for You?	・予定を述べる会話表現	・自分の予定を話したり，相手の予定を聞く方法を学ぶことができたか。
	L2 How Was Last Sunday?	・週末の出来事について述べる会話表現	・過去の出来事について，質問をしたり答える方法を学ぶことができたか。
第2学期	L3 Could I Have an Extra Blanket?	・飛行機内での会話表現	・飛行機の中で自分の要求を依頼する表現を覚えることができたか。
	L4 Who's Calling Please?	・電話における会話表現	・電話での応答表現を学ぶことができたか。
	L5 How Can I Get There?	・道案内における会話表現	・人に道を聞く時，聞かれた時の答え方を学ぶことができたか。
	L6 May I Help you?	・買い物における会話表現	・買い物をするための表現を学ぶことができたか。
第3学期	L7 You Look Nice in That Dress!	・パーティにおける会話表現	・相手を褒めるとき，褒められたときの表現方法を学ぶことができたか。
	L8 I'm Not Feeling Well	・体調について述べる会話表現	・体の名称や症状の表現を使って，自分の体調を表現する方法を学ぶ。
	L9 I Want to Be a Diplomat	・将来について述べる会話表現	・未来について述べる表現を学ぶことができたか。

5 学習評価

評価は，観点1「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」，観点2「外国語表現の能力」，観点3「外国語理解の能力」，観点4「言語や文化についての知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は，次のとおりです。

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	◎	◎	◎	単元確認，語彙，音読テスト等
提出物	◎	○	○	○	課題プリント，ノート，ワークブック等
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

評価をする際に最も重視されるのは定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず，それが大切です。しかし，テストの点数だけで成績が決まるわけではありません。私たちは，君たちの毎日の学習態度にも注目し，考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については，具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか，ノートをしっかり取っているか，活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★小テスト

学習内容の確実な理解のためにも，毎回高得点を目指しましょう。

★提出物

宿題や課題に着実に取り組んで，きちんと提出しましょう。

◎英語の授業はいつでも，「テストの得点＋普段の努力」が大切です。

平成27年度 英語表現Ⅰの学習（シラバス）

1 科目名、単位数、履修学年、履修区分、使用する教科書

科目名	英語表現Ⅰ	単位数	3	履修学年・区分	第3学年（選択）
使用する教科書	Vivid English ExpressionⅠ（第一学習社）				
副教材等	音読英単語 入門編（Z会出版）				

2 学習目標

◎ みなさんは、中学時代を含めた5年間の英語の勉強を通じて、多くの単語や熟語、文法を学びました。「英語表現Ⅰ」では、それらの知識を活用して、自分の伝えたいことを、場面や目的に応じて英語で書いたり話したりできるように勉強します。いろんなことを積極的に、英語で表現しましょう！

3 学習方法

◎ 正確に情報や考えを伝えるために必要なことは、①ボキャブラリーが豊かなこと、②文法を正しく身につけていること、③よい文章をたくさん覚えることです。そのために、単語集を用いて多くの単語を覚えたり、文法ベースで構成されている教科書の例文を何回も書いて練習したりします。目・口・手を使ってたくさんの表現を覚えるのが「英語表現Ⅰ」の勉強です。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Lesson 1～5	・肯定文、否定文、疑問文、命令文 ・文型（SV・SVC・SVO・SVOO・SVOC） ・進行形	・文の種類及び文型を、正しく用いて表現することができたか。
	Lesson 6	・進行形	・現在進行形と過去進行形を用いて表現することができたか。
	Lesson 7	・未来を表す表現	・未来を表す表現を正しく使うことができたか。
	Lesson 8	・完了形	・完了形の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
第2学期	Lesson 9～10	・助動詞	・助動詞それぞれの違いを知り、使い分けながら表現することができたか。
	Lesson 11～12	・受動態	・受動態を用いて表現することができたか。
	Lesson 13～16	・to不定詞（名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法） ・動名詞	・不定詞の用法を理解し、状況に応じて表現することができたか。
	Lesson 17	・動名詞	・動名詞を用いて表現することができたか。
第3学期	Lesson 18	・分詞（現在分詞・過去分詞）	・分詞の考え方を理解し、それを使って表現することができたか。
	Lesson 19～20	・比較	・比較の用法を理解し、場面に応じ適切に表現することができたか。
	Lesson 21～22	・関係代名詞	・関係代名詞の考え方を理解し、それを使って表現することができたか。

5 学習評価

評価は、観点1「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、観点2「外国語表現の能力」、観点3「外国語理解の能力」、観点4「言語や文化についての知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	◎	◎	◎	単元確認、語彙、音読テスト等
提出物	◎	○	○	○	課題プリント、ノート、ワークブック等
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

（◎＝観点の中で特に重視するもの）

評価をする際に最も重視されるのは定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。しかし、テストの点数だけで成績が決まるわけではありません。私たちは、君たちの毎日の学習態度にも注目し、考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については、具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかりと取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★小テスト

学習内容の確実な理解のためにも、毎回高得点を目指しましょう。

★提出物

宿題や課題に着実に取り組んで、きちんと提出しましょう。

◎英語の授業はいつでも、「テストの得点＋普段の努力」が大切です。

平成 27 年度 フードデザインのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	フードデザイン	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Aコース（選択）
使用する教科書	新版フードデザイン COOKING&ARRANGEMENT（教育図書）				
副教材等					

2 学習目標

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術習得し、食生活を総合的にデザインするとともに、食育の推進に寄与する能力と態度を身に付けます。

3 学習方法

- ①現代の食生活の特徴について、健康面・安全面・環境問題・心理面など多方面から学びます。
- ②健康的な食生活を送る上で必要な知識や、クローン技術・遺伝子組み換え食品などの新しい技術について学びます。
- ③調理の基本を科学的に学びます。
- ④和洋中の調理実習を通して、基本的な調理技法を学びます。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Ⅰ）食生活の充実・向上 ①食生活の変化と現状 ②よりよい食生活を創造するために 《調理実習①～④》 和食献立1 洋食献立1 中華献立1 菓子1 《食物調理技術検定3級受検対策》 (期末考査)	わが国の食生活の変化に伴う様々な問題点を、栄養・自給率・環境など多角的に学びます。 《学習形態》 講義、VTR視聴 《学習形態》 実習 《学習形態》 実技講習、講義	心身共に健康で豊かな食生活を営むための食事の在り方について考えることが出来たか。
第2学期	Ⅱ）健康・栄養・食物 ①なぜ食物が必要なのか ②健康に必要な栄養素 ③食品の成分と変化 ④食品の加工 Ⅲ）調理と献立 ①調理の基本 ②献立作成 ③様式別の献立と調理・食卓作法 ④テーブルコーディネート 《調理実習⑤～⑩》 食品加工1 和食献立2 洋食献立2 中華献立2 菓子2 行事食1	各栄養素の種類と栄養的な意義、食品、それらの人体への影響を学びます。また、身近な加工食品について学びます。 《学習形態》 講義、VTR視聴 基本的な調理操作の方法や意味を学び、調理の基本を身に付けます。また、献立作成能力や様式別テーブルコーディネートの実践力を身に付けます。 《学習形態》 講義、実習 《学習形態》 実習	・各栄養素の種類と働きを理解することができたか。 ・各ライフステージごとの栄養の特徴を知り、調理に生かすことができたか。 ・食品に関する様々な情報を収集し適切に判断することができたか。 ・調理の目的について理解することができたか。 ・のぞましい献立作成のための留意点を理解することができたか。 ・各料理にふさわしいテーブルコーディネートを理解し、実践できたか。
第3学期	《調理実習⑪～⑫》 行事食2 自主献立	《学習形態》 実習、調べ学習	

5 学習評価

評価の観点及び評価方法

観点 1	関心・意欲・態度	食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。
観点 2	思考・判断・表現	自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。
観点 3	技能	調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる。
観点 4	知識・理解	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得することができる。

観点 評価方法	観点 点 1	観 点 2	観 点 3	観 点 4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加態度
テスト	○	◎	○	◎	考査等
提出物	◎	◎	○	○	課題等
実技	◎	○	◎	○	調理実習等

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

以上を総合的に判断し、評価します。

平成27年度 情報処理のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名 情報処理	単位数 3	履修学年・区分	第3学年(選択)
使用する教科書	情報処理(実教出版)		
副教材等			

2 学習目標

- ①全国商業高等学校協会主催ビジネス文書実務検定試験を受験し、資格を取得しましょう。
- ②ソフトウェア(ワード・エクセル・パワーポイント)の技術を身につけましょう。
- ③新聞やインターネットなどで情報を収集し、ビジネスに関心を持ちましょう。

3 学習方法

- ①コンピュータ実習が中心です。「習うより慣れろ」の精神です。実技テストを実施します。
- ②新聞やインターネット, DVD教材等を活用します。社会に関心を持ち、情報を収集し、的確に処理することが大切です。

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 3節 基本文書の作成 4節 応用文書の作成	ワードを使った学習 ・パソコンの基本操作の確認 ・ワードによる文字入力の練習 ・ビジネス文書の形式 ・ビジネス文書実務検定試験(第1～4級)の対策 ・筆記試験練習 ・実技試験(速度・文書)対策 <検定試験受験>	・責任を持ってパソコンを適切に扱っているか。 ・ローマ字入力, ブラインドタッチができていないか。 ・ビジネス文書について理解できたか。 ・コンピュータ用語, ビジネス用語, 国語的内容(漢字・読み・諺・敬語等)について理解できているか。説明事項をプリントに記入できているか。 ・速度や文書を制限時間内に各級の問題を正確に打ち終えることができるか。各級の指示どおりビジネス文書を入力できたか。
第2学期	第3章 ビジネス情報の処理と分析 1節 基本的な表の作成 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成 4節 情報の整列・検索・抽出 第1章 情報の活用と情報モラル	エクセルを使った学習 ・演習問題による実習 ・関数 ・グラフの作成方法 ・データの検索方法や抽出方法	・表の作成方法が理解できたか。 ・関数が理解できたか。 ・グラフ作成方法が理解できたか。 ・データベース機能等について理解できたか。

	1 節 ビジネスと情報 2 節 情報モラル	・情報を正しく扱うための基礎的知識や責任、ルール	・コンピュータや情報を正しく、安全に利用する意識が高まったか。
	3 節 ハードウェアとソフトウェア	・構成要素の基本を理解する。	・構成要素が理解できたか。
	第2章 情報通信ネットワーク		
	1 節 情報通信ネットワークの概要 4 節 セキュリティ管理の基礎	・情報通信ネットワークの役割や仕組み ・セキュリティ管理の重要性	・情報通信の仕組みが理解できたか。 ・情報を収集し、適切に利用できているか。
	第5章プレゼンテーション	パワーポイントを使った学習 ・資料の作成実習	・パワーポイントの操作方法を理解できたか。
第3学期	第4章 ビジネス文書の作成 2 節 図形と画像の活用	・作品制作 ・肖像権	・肖像権に配慮できたか。 ・生徒同士の相互評価も実施する。

5 学習評価

評価の観点と評価方法

観点1	関心・意欲・態度	情報処理について関心をもち、主体的に取り組む態度を身につけている。
観点2	思考・判断・表現	適正な会計処理を目指して思考を深め、適切に判断し表現する能力を身につけている。
観点3	技能	情報処理に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。電卓による計算技術を身につけている。
観点4	知識・理解	情報処理に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、基本的な仕組みについて理解している。

評価方法 \ 観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加態度
テスト	○	◎	◎	◎	実技テスト等
提出物	○	◎	◎	○	制作物、課題等
実技	◎	○	◎	○	操作技術

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

以上を総合的に判断し、評価します。

平成27年度 簿記のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	簿記	単位数	2	履修学年・区分	第3学年(選択)
使用する教科書	新簿記(実況出版)				
副教材等					

2 学習目標

- ①簿記に関する基礎的・基本的な用語を理解しましょう。
- ②多岐にわたる帳簿記入のルールを覚えましょう。
- ③電卓による正確な計算により適正な会計をしましょう。

3 学習方法

- ①ルールや簿記用語を覚えるために, 重要事項をノートにまとめます。
- ②基本問題をしっかり理解し, 応用問題へ発展させます。
- ③練習問題を沢山解くことにより, 学習を定着させます。よって, とにかく沢山書きます。
- ④簿記の用語は漢字が多いので, 繰り返し書いて覚えます。やはり, 沢山書きます。
- ⑤正確な計算が要求されます。電卓による正確で速い計算能力を身につけるよう練習します。

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第1編簿記の基礎	・簿記の基礎 ・貸借対照表の作成 ・損益計算書 ・取引と勘定 ・仕訳と転記 ・仕訳帳と総勘定元帳 ・試算表	・簿記の意味や目的などが理解できたか。 ・簿記上の取引が理解できたか。 ・貸借対照表が作成できたか。 ・損益計算書が作成できたか。 ・取引の分解と勘定記入ができたか。 ・仕訳と転記ができたか。 ・仕訳帳と総勘定元帳の記入方法が理解できたか。 ・試算表が作成できたか。 ・貸借が一致しない場合の確認方法が理解できたか。
	第1学期期末考査	・6桁精算表 ・決算	・6桁精算表の意味や作成方法が理解できたか。 ・決算の意味を理解し, 適切な手続きの方法が理解できたか。
第2学期	電卓実務検定試験に向けての学習	・電卓計算の問題 ・現金・預金などの取引	・正確な計算ができたか。 ・現金として扱うものについて理解できたか。 ・現金出納帳が作成できたか。 ・当座預金と小切手の関係が理解できたか。 ・当座預金出納帳が作成できたか。 ・小口現金出納帳が作成できたか。
	第2編取引の記帳	・掛け取引	・売掛金, 買掛金に関する仕訳が理解できたか。

第 3 学 期	第4編会計帳簿と帳簿組織 学年末考査	・手形の取引 ・仕訳問題の総復習 ・3伝票制	・手形の記入内容が理解できたか。 ・約束手形・為替手形と記帳上の支払手形・受取手形の関係が理解できたか。 ・仕訳問題が解けるか。 ・取引を伝票に起票できたか。 ・伝票集計ができたか。
------------------	---------------------------	--	---

5 学習評価

評価の観点及び評価方法

観点1	関心・意欲・態度	簿記について関心をもち、主体的に取り組む態度を身につけている。
観点2	思考・判断・表現	適正な会計処理を目指して思考を深め、適切に判断し表現する能力を身につけている。
観点3	技能	簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。電卓による計算技術を身につけている。
観点4	知識・理解	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、基本的な仕組みについて理解している。

評価方法 \ 観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加態度
定期考査・小テスト	○	◎	◎	◎	学期末考査, 小テスト
提出物	◎	◎	◎	○	制作物, 課題等
実技	◎	○	◎	○	記帳の技術, 電卓計算

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

以上を総合的に判断し、評価します。